

# 病院のお仕事いろいろ

## その1 背中からのあたたかさを いつも大切にしたい

緩和ケア認定看護師

坂本佳也(さかもと かや) 看護師

本院は特定機能病院として、治癒が困難な多くの悪性疾患の患者さんの治療を行っています。と同時に、がんと診断された初期の段階から緩和ケアが受けられます。がんと診断されたときのショック、様々な治療に伴う身体へのつらさ、がんという病気を抱えていることによる心理的な不安、不眠など、治療中のつらい症状や悩みに対応しています。

「以前は痛みを和らげることに重きが置かれていましたが、今は複雑な身体状況や神経状況など幅広い方面でのケアが求められています」(坂本看護師)

看護ケアの基本は、「患者さんや家族のQOL(生活の質)を一番大切にしていこう」という考え方で「それぞれの患者さんと家族が自分らしい生活を取り戻す」、それが緩和ケアの目指すゴールです。

以前、緩和ケアは「ホスピスケア」と呼ばれていました。ホスピスという言葉は中世ヨーロッパの修道院で、貧しい人や病気の人に食事や宿を提供したり、看病したことに由来します。「ホスピスという言葉には“もてなす”という意味があり、心ならずも病を得て迷い悩む患者さんやそのご家族に、背中からそっと暖かさを送れるような看護を心がけています」(坂本看護師)

よく「患者さんと向き合う」、「患者さんに寄り添う」という言い方をしますが、坂本さんは「正面や側面からはもちろんですが、視線が届きにくい背中こそ大切。弱いところですね」と言います。

最善の治療を受けても、完全には治しきれないことがまだまだあります。



が、たとえがんの治療が難しい状態になっても、生が続く限り人は希望を持ち続けています。

「ある小説に、希望とは常に人との係わりのなかにある、という言葉がありました。人は様々なつながりで支えられています。そうした支えのひとつになりたいと願っています」(坂本看護師)とのことでした。

## その2 理解し納得してもらう歯の磨き方

歯科衛生士

真杉幸江(ますぎ さちえ) 歯科衛生士

大学病院の歯学部での歯科衛生士の役目は、歯科医の補助的な業務を行なうのはもちろん、正しい歯磨きの仕方、効果的なブラッシングなど患者さんへの保健指導を的確に行なうことです。

「歯磨きは20分以上続けないと効果が薄いと聞きますが」と、聞きかじりの質問をすると、「時間の長い、短いではないんですね。ブラシをどこにどう当てるかが大事。そのポイントを患者さんに実感してもらうことを心がけています」と真杉さん。

歯磨き粉に含まれる清涼剤でサッパリと磨いたような気分になりがちですが、当ててほしい部分にちゃんと届いて汚れを除去できているかは案外と難しいようです。

そして、それが虫歯や歯周病の原因になるわけです。

「口の中は人によって千差万別ですが、とくに歯と歯茎の境の汚れ対策が大切。鏡を見てもらいながら、ここに、この角度で歯ブラシを当てて、こう磨いて下さい」というように、できるだけ具体的にハウツー方式で指導しています。歯ブラシの選び方については、年齢が上がってきたら歯茎を痛めないためにも出来るだけ柔らかいもので丁寧に磨くことが大切。高齢になると歯茎が下がることが多いので、ケアすべき部分に届いていないことも多いそうです。子どもの場合はまず順番にポイントを置くなど、年齢に合わせて指導に変化をつけるなどの工夫も欠かせません。

ドラッグストアなどで、多種多様な口腔ケア商品を見かけるようになり



ましたが、「この世界は奥が深いんですよ。ですから買い物に行っても新しい物があるとつい見入ってしまい、思わぬ時間がかかってしまうこともあります。職業病ですかね」と、明るく笑いながら、歯磨きのポイントについて、「道具は口腔内に適したものを上手に使うこと。どうぞ歯科衛生士に遠慮なくご相談ください」とのことでした。